

山形県 南陽市
移住者向けガイド

ようこそ、

山の向こうの

もう一つの

ふるさとへ



“山の向こうのもう一つの日本”

そこには、果てしなく続く山脈や
大森林が広がり

そしてあちこちに点在する村や町や
小都市の住民にとって

とても快適な生活空間があります

日本の本来の姿を

思い出させる美しいところです

これは、元駐日米国大使

エドウィン・O・ライシャワー氏が

山形を表現した言葉です

ここ南陽市は

山々に囲まれた盆地が広がる地域

都会ほど便利なものはなくとも

心地よく感じられる暮らしがあります

夢中になれる仕事も

ゆとりを実現する暮らしも

自分らしい生き方も

山の向こうの

もう一つのふるさとが

見つかるかもしれません



生活

生活には**車が必須**。

1台あれば、買い物や仕事など生活の幅が広がります。
なかには、お隣さんの家へいくのにも車を使う方もいるとか。



交通

赤湯駅には、**山形新幹線**と奥羽本線（山形線）、**フラワー長井線**が停まります。電車の間隔は約1時間ですが、東京駅から赤湯駅までは山形新幹線で

約2時間20分なので**割と近い**と感じる方もいるかもしれません。

フラワー長井線は、赤湯駅から続く約30kmのローカル線。

電車に揺られながら田舎の風景を楽しむ、

そんな小旅行も楽しめますよ。

本数は少ないですが、市内には**コミュニティバス3路線**も運行しています。



市内は、**高速道路へのアクセスも良好**なので、南陽高島ICから首都圏や東北各県にも便利です。

また、車での通勤は電車より

時間のゆとりが生まれます。

公衆浴場で温泉を楽しんだり、

スポーツで汗を流したり、

家族の時間を楽しんでみては。



食

田んぼや畑、果樹園、農場など、

豊かな農作物をつくる現場が**暮らしのすぐ傍**にあります。

里山に入れば、**四季折々の山菜**が手に入り、



子育て

子育て世代の方にはお住まいの地域の
子育て環境に不安を感じている方も多いのではないでしょうか。

南陽市は**子育てしやすい環境No.1**を目指して、

全ての子ども達が安全に過ごすことができるように

学童保育や**放課後子供教室**などの

施設整備を進めてきました。

子育て支援センターを中心に

相談体制もしっかり整えています。



教育

市内には**小学校が7校**、**中学校が3校**、**県立高校が1校**あります。

「朝のあいさつ」から始まり、**地域行事**、**ボランティア活動**への参加など、

子ども達の主体的な活動を、学校や地元住民が**協力しながら支えています**。

きっと、はじめて訪れたら、子ども達の**元気なあいさつ**に驚かれる方も多はず。



南陽って
どんなところ



南陽市は知る人ぞ知る**ラーメンのまち**。

ラーメン好きも多く、**市役所にはラーメン課**のプロジェクトも立ち上がったほど。

あなただけのお気に入りが見つかります。



市内**6社のワイナリー**では
味わいあるワインが造られる。

季節の食材が、あなたの食卓に
無限大の幸せと喜びを
提供してくれます。



住まい



持家世帯の比率は**79.9%**。
 マイホームの新築から空き家のリフォーム、アパートまで、
 あなたのライフスタイルに合った理想の暮らしがきっとあるはず。
 市の**空き家バンク**では、様々な空き家をご紹介しますが、
 運が良ければ、**古民家**もみつかれるかも。
 また、最大**100万円**の住宅取得支援制度等で、
 あなたの**夢を積極的にサポート**します。

遊び

春夏秋冬、**季節ごとに自然を満喫**できるのが山形県の良いところ。

春、夏、秋と**海、山、川**での**アウトドアライフ**はもちろん、

冬も蔵王や米沢で**ウィンタースポーツ**が気軽に楽しめます。

南陽市にある十分一山(じゅうぶいちやま)は、

スカイスポーツの聖地で、

近年では体が不自由な方も

パラグライダーが楽しめるエリアとなっています。



文化会館

マイクやスピーカーなどの機材を感じさせない、
 まるで**ストラディバリウス**の中にいるような、
自然な音源を楽しめる空間。

南陽市には、**世界最大の木造コンサートホール**があります。

1403席の大ホールは、子ども達や市民団体の創造の場にもなり、

著名なアーティストの音楽、**芸術文化**を楽しむ場にもなる。

今日も新たな芸術文化がそこから生み出されています。

(C)BAUHAUSNEO

南陽市で暮らそう 助成・支援制度

南陽市では、移住定住をお考えの方へ様々な助成・支援制度を用意しております。

住まい

空き家バンク

南陽市内の空き家物件をお探しの方はご利用ください。

子育て世代定住建設助成金

子育て世代で、南陽市内に持家住宅の新築又は購入される方に費用支援を行います。

持家住宅建設助成金

持家住宅のリフォーム工事について費用支援を行います。

仕事

インターンシップ交通助成金

インターンシップ実習生に対し、交通費の一部を助成します。

農業支援ワンストップ窓口

新たに農業をはじめたいとお考えの方のご相談をお受けします。

子育て

地域子育て支援センター

子育ての相談、情報交換、交流の場を提供しています。

ファミリーサポートセンター

地域の中で子育てを助け合う制度です。

子育て支援医療制度

お子さん(0歳～中学3年生)の医療費の自己負担額を助成します。

保育園・児童館への入所

未就学児童の保育施設です。

一時保育

保護者が病気や出産などで保育が一時的に困難になる際に利用できる施設です。

病後保育

病気の回復期のため、集団保育ができない児童を保育します。

放課後子供教室

放課後の学校施設を活用し、多様な体験活動を行っています。

学童保育

小学校1～6年生の放課後の保育施設です。

第3子以降学校給食費無料化助成金交付事業

3人目以降のお子さんの学校給食費を助成します。

制度の詳細はこちらから

南陽市で暮らそう(移住定住情報)

<http://www.city.nanyo.yamagata.jp/iju/2576>



2018年移住の矢野陽之さん ワイン醸造のため1ターン

神戸市出身。調理師学校卒業後に神戸市のイタリアンレストランに勤務。ソムリエの資格取得後、イタリア、オーストラリア、ニュージーランドに渡り、ブドウ栽培、ワイン醸造を学ぶ。2018年、南陽市のワイナリー「グレープリパブリック」に就職、南陽市へ移住した。

東北の大地が育むブドウで 自分の思う最高のワインをつくりたい



ライフステージは厨房からワイナリーへ

料理の世界からワイン醸造の仕事に転身した矢野陽之さん。かつて、神戸市内のレストランの厨房で働いていた際にワインの奥深さに惹かれソムリエの資格を取得、ワインの本場イタリアでソムリエの仕事を経験しました。

さらに、オーストラリア、ニュージーランドに渡り、ブドウ栽培やワイン醸造を基礎から学んだそうです。「ワインづくりは料理に似ている。大きさは異なるが、厨房がワイナリーになり、調理器具がフォークリフトや、プレス機に変わっただけ」と笑顔で語ります。そんな矢野さんが、ニュージーランドで醸造家アレックスと出会い、彼の紹介により就職した場所が、南陽市にある2017年創業のワイナリー「グレープリパブリック」でした。

地域の方とつながりながら 自分の思う最高のワインをつくる

神戸市出身の矢野さんにとっては初めての東北。南陽市は身近に里山やブドウ畑、田園の風景が

広がっていて、自然が豊かで静かな暮らしは、大阪やシドニーのような都会よりも過ごしやすさ性にあっているそうです。

農家の方と最初に会ったときには、全く「やまがた弁」が分からず衝撃を受けましたが、「今では地域で作ったサクランボなどの農作物や山で採った山菜などをいただいている。自分の地元では考えられないことだと思う。そういう人間関係がいい。自分でも山菜を採りに行きたい」とのこと。南陽市にはイタリアのような街並みは もちろんありませんが、食や生活の知恵、生きていく上での技、コミュニティのつながりなどの地域に根差した文化を感じられるそうです。

移住して2年目を迎え、現在は南陽市の風土を活かして作られたぶどうで、Made of 100% Grape のナチュラルワインを仕込んでいて、世界市場への出荷も考えているそう。

「来年は、南陽産のデラウェアで自分の思う最高のワインをつくりたい」と、ブドウ畑を見つめながら嬉しそうに教えてくれました。



仕事と子育ての調和を求めふるさとへ 夫婦で美容室を開業

2013年移住の山口さん一家 Uターンして子育てしながら美容室を開業

夫・貴志さんは南陽市出身。熊本県出身の妻・まき子さん、小学3年生の長男、小学1年生の長女、2歳の次女の5人家族。2013年に南陽市に移住し、美容室「BELLE」を開業。ご両親に助けてもらいながら、子育て、仕事を両立中。



仕事と子育てを両立させるためふるさとへ

貴志さんとまき子さんはお勤め先の東京にある有名美容室で出会い結婚、まき子さんは長男を出産後、1歳のときに仕事に復帰しましたが、ご両親と離れて暮していたため、自分達で仕事と子育てを両立させなければなりませんでした。「子どもを預けて遅くまで仕事をしたり、子どもが急に熱を出してお客さんや同僚に迷惑をかけたたりして心苦しかった」と当時を振り返ります。長女を妊娠し、さらにこの想いが強くなり、仕事と子育てを両立させる自信が持てなくなったそうです。貴志さんの実家がある南陽市で開業すれば、「家族の時間を持つことができ、両親の手を借りながら好きな仕事もできて、すべてうまくいく」2013年の南陽市への移住は、山口さん家族にとってライフスタイルを変える大きな転機となりました。

美容室の開業から暮らしのゆとりが生まれる

南陽市に開業したお店は1階が美容室、2階が自宅です。まき子さんは、朝、子どもたちを送り

出すと、美容室を開店。子ども達は学校から帰宅すると、お店の中で宿題を済ませ、夕方には子どもと2階に上がり夕食をとります。貴志さんは閉店まで仕事を続けます。「子どもと一緒に過ごす時間ができ、生活の中で仕事に向かう姿を見せることができるのも自営業ならではの」と語るまき子さん。東京での暮らしは、朝の通勤ラッシュから始まり、毎日ヘトヘトで、仕事以外のことは考えられなかったそうですが、今では家族でマラソンに挑戦するほど暮らしも仕事も充実しているようです。「川沿いの桜もきれいだけど山の桜が好きです。山一面に咲く烏帽子山の桜は最高です」四季折々の風景や食べ物を子ども達と一緒に楽しみながら暮らす、南陽市への移住は、仕事と子育てを両立させながら楽しむ余裕を生むきっかけとなりました。「南陽市は、東京、仙台方面への交通アクセスもよく、人の出入りも多いので、開業しやすい環境だと思います。挑戦したい方は是非チャレンジしてみては」と、笑顔で話してくれました。



自分の手で娘たちに 美味しい農作物を作りたい

一晃さんと良子さんは、お勤め先の東京都内の同じバイク用品店で出会い結婚、お子さん2人に恵まれました。東京で暮らす中で、農業を営む一晃さんのご実家から季節ごとに送られてくる新鮮な農産物を食卓に並べると、幼かった娘さんが、「おじいちゃんおばあちゃんの作ったお米っておいしいね」といつも喜ぶ笑顔がありました。長年抱いていたふるさとの想いも重なり、「家族で山形に戻り、自分の手で娘たちに美味しいものを作りたい」と、2012年に南陽市への移住と就農を決意しました。

ご両親の経営する「たいら農園」は、お米やりんご、さくらんぼ等の果物、リンゴジュースやドライアップルなどの加工品を生産しています。ご両親とともに農園の規模を拡大し、農作物が育ち収入を得られるようになるまでは貯金を切り崩す生活で不安もありましたが、市役所から新規就農者向けの支援金制度の紹介を受けたそうです。「農業が軌道に乗るまでの間、支援金の

おかげでとても助かりました」と一晃さんは
当時は振り返ります。

新しい発見と作る喜びにあふれる暮らしに

東京で生まれ育った良子さんは、「南陽市は自然豊かで名所がいっぱい。りんご畑がある山の景色も最高」と笑顔。一晃さんのご両親に、ホテルが見られる場所やおいしい水が流れているところ、眺めのいい場所など「知る人ぞ知る」スポットを教えてもらっていて、次はどんな所を教えてもらえるのだろうと楽しみに暮しています。友達もたくさんできたそう。

経営も軌道に乗り、「南陽市の農作物が一番おいしい」と思ってもらえるように、ご両親とともにご夫婦力を合わせて農作業に取り組んでいます。「減農薬の特別栽培米やりんご、さくらんぼを全国の皆さんに食べてほしい。作った農作物を振る舞って友達やたくさんの人に楽しんでもらえるような場所をつくりたい」と語るおふたり。平さん家族の夢は大きく膨らんでいます。



2012年移住の平さん一家 Uターンして新規就農

夫・一晃(かずあき)さんは南陽市出身。
東京都出身の妻・良子(よしこ)さん、
小学3年生の長女、小学1年生の次女の4人暮らし。
南陽市へ移住し、両親とともに「たいら農園」を経営。

美味しい農作物を全国に届けたい 農園を家族で経営する暮らし





2012 年移住の井村さん一家 | ターンしラーメン店を経営

夫・賢悟さん、妻・三智代さん、小学4年生の長男、小学2年生の長女の4人家族。2012年に東京都から南陽市に移住。

賢悟さんはラーメン店「麺屋葵」を経営。

三智代さんはラーメン店を手伝いながらダンススクールを運営。



一步踏み出し拓けた道 理想の味を求めて ラーメン店開業



充実した子育て環境とラーメン店開業の夢

「移住のきっかけは、両親が古民家暮らしに憧れ、南陽市内の古民家を購入し、移住していたことです」と語る賢悟さんご一家。それまで東京都内に住み、賢悟さんは飲食店に勤務、妻の三智代さんはダンスで生計を立てていましたが、時折ご両親が住む南陽市へ家族で訪れるうちに、「環境のいいところで子育てしたい」という想いが強くなり、2012年に南陽市へ移住しました。

賢悟さんは、ご両親の勧めで古民家の空き部屋を使いラーメン店「麺屋葵」を開業しました。その後、魚介豚骨ラーメンや焦がし担々麺など、日々おいしいラーメンの研究と努力を重ね、「麺屋葵」は開業から数年で県内外からお客様が訪れる人気ラーメン店となり、お店を国道

沿いに新築移転しました。

「あまり南陽市のラーメン店の情報を知らなかったからできた。起業前に情報を得ていたなら、あれこれと考えて大切な一步が踏み出せなかったかもしれない。知らないからこそしがらみもなくフットワークを軽くできた」と当時を振り返ります。

一步踏み出すことから道が拓けてきた

ご夫婦は現在、お店の他に一戸建ての家を建てて、子ども2人、大型犬2匹と生活しています。「東京圏で暮らしていたら実現できなかったと思う。移住したことで生活レベルが向上し、家庭のベースを築くことができた」と賢悟さん。田舎に暮らしていてもインターネットで情報が入るし、買い物もできるので不便は

感じないそう。仕事は忙しいけれども、家族の時間や子どもの習い事など、自分たちで時間を有効に使うことができているとのこと。犬と田んぼ道を散歩していると、田園風景から季節の移り変わりを感じ、ふっと肩の力が抜けて、リラックスできると笑顔で話されていました。

「移住に興味があるのなら、まずは一步踏み出すことだと思う。踏み出さないと楽しみも後回しになって、1年、5年と過ぎてしまう。まずは来てから悩みましょう。目の前のことに妥協せずに向かっていくと自然と道が拓けてくるし、やった分だけ褒美が返ってくると思って仕事に取り組んでいる」と未来の移住者に向けてメッセージをいただきました。

ようこそ、南陽市へ

Data

人口：31,400人
世帯数：11,338世帯（2019年4月1日現在）
面積：160.52km²

山形県南部に位置し、
温泉地として知られる南陽市。
北に山間部、南に肥沃な平地が広がる。
盆地特有の寒暖差のある気候によって
おいしい果樹やお米が育つ。
四季の自然を感じながら、
あなたらしく暮らせるまち。



山形県 南陽市



Access

東
京



東京駅

J R山形新幹線つばさ

赤湯駅

[約2時間20分]

南
陽
市



東京

— 首都高速 — 東北自動車道 — 東北中央自動車道 — 南陽高島IC

[約4時間30分]

発行

南陽市みらい戦略課

〒999-2292 山形県南陽市三間通436番地の1

TEL:0238-0248 FAX:0238-40-3242

<http://www.city.nanyo.yamagata.jp>

